

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2171800408 | | |
| 法人名 | 特定非営利活動法人グッドサポート福祉会 | | |
| 事業所名 | グループホーム小春日和 | | |
| 所在地 | 岐阜県土岐市泉町河合217番地 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年9月25日 | 評価結果市町村受理日 | 平成27年2月2日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2171800408-00&PrefCd=21&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|----------------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと |
| 所在地 | 岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル |
| 訪問調査日 | 平成26年11月11日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| <p>①建物から自由に庭に出ることが出来、自然に触れたり畑の作物を収穫できたりと精神的な解放感を感じて頂ける工夫をしています②家庭的な雰囲気作りを重視しています③デイサービスやグループホーム小春日和第2の利用者との交流がレクリエーションやボランティア来所時に持てるよう配慮したケアをしています</p> |
|--|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| <p>利用者は、日々庭の樹木や目線に広がる山並みに、季節の移ろいを感じながら、穏やかな生活を送っている。今は、前庭の大樹の柿が、たわわに実り、色鮮やかである。民家を改良し、家庭的な心安らぐ空間の中で、利用者は趣味の作品づくりに集中したり、応分の役割を担いながら、自分らしい暮らしを享受している。地域住民との関係も親密であり、庭木の剪定や草刈り、畑仕事など、無償で協力が得られている。職員は町の人々の力を借りながら、チームワーク良く、利用者がゆったりと安心感が持てる支援をしている。</p> |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|----|--|---|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念のひとつに、自然や町の人の力を借りて笑顔の小春日和に！とある。職員採用時やケアカンファの時に話すなどして理念の共有をしている | 理念は「人生の総仕上げの花を咲かせてほしい」の主題の下に、数項目を掲げている。その意義は、会議の度に確認をしている。利用者は、豊かな自然や地域の人の力を借りながら、笑顔で、安心して暮らしている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内の祭りには参加して交流すると共に畑の作物や花をご近所からいただいたりして日常的に交流している | 町内会員であり、地域の祭りや行事に参加している。近所の人や、庭木の剪定や毛虫の消毒、蜂の巣駆除などを手伝いに来ている。また、花や野菜の差し入れもあり、親しい関係を築いている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の老人会の集まり等随時認知症の相談を受けている | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 報告や話し合いを行い、老人会や町内、市役所の方に意見を頂き祭りや行事への参加等サービスの向上に活かしている | 会議は、軽食をはさみながら、隔月に開催をしている。運営の現状を報告して意見を交換し、防災対策や行事計画、福祉環境の現状なども話し合い、サービスの向上に反映させている。 | 会議議事録に各出席者の発言が分かるように、記録の工夫をし、さらに発言の少ない人への働きかけにも期待したい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議に市役所の福祉課に出席して頂き、実状の報告をしております。市から要請のあった書類の作成は速やかに行う等協力関係を築くことができるように取り組んでいる。 | 運営推進会議に出席した担当者に、運営の実情を伝えている。地域ケア会議の機会に、困難事例の検討や情報を交換している。事故などは、速やかに報告し、助言を得ている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 禁止の対象となる行為については職員が十分理解するよう随時話し合い、職員は十分理解できている。普段のケアで常識的な基本事項として取り組んでいる | 職員は、身体拘束や虐待の弊害を熟知している。そして、介護の基本姿勢を守り、心身共に、拘束のないケアに取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 身体拘束廃止推進員研修および身体拘束廃止推進員フォローアップ研修に1名参加しておりケア会議等を通じ虐待を見落とすことが無いよう努めている | | |

岐阜県 グループホーム小春日和

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している | 制度については職員に説明し理解をすすめている。現に1名は成年後見制度を活用されている | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 重要事項説明者及び契約者により十分な説明を行うほか事業所のケアに関する考え方、リスク、医療連携の実際、重度化について同意を得るようにしている | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議時や面会時に積極的に要望を聞く機会を作るよう留意している。また出された意見や要望は随時話し合い対応している | 家族の面会時や電話等で、意見・要望を聞き、その内容を、連絡簿に記録し、対応策を講じている。衣替えの準備やおむつ費用の軽減、症状の悪化予防などの意見を受け、運営に反映させている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月のケアカンファレンス時、他日常的にコミュニケーションをとり意見や提案を運営に反映させている | 毎月、運営に関する検討会議を設けている。必要な備品の補充や洗面台などの設備改修の提案があり、実現している。誤薬の防止や労働時間の調整など、多様な意見も検討し、運営に反映させている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の能力や努力の把握し給与に反映させている。労働時間や体調の相談にのり、やりがいや向上心ももて、無理なく勤務できるように努めている | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 一人一人のケアの実際や力量を把握し適切と思われる研修を積極的に受講できる機会を確保している | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 研修を通じ同業者と交流する機会を作っている。地域ケア会議等の交流により連携の取り方等サービスの質を向上させていく取り組みをしている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所前から訪問し本人と話す機会を確保し、状況の把握に努め、信頼関係が築けるように心がけている。また要望に対応できるよう配慮している | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 事前の面談や相談で家族の思い等を十分聞く機会を設け、信頼関係を築けるよう努力している | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 面談時に状態把握を行い、必要な支援内容を見極め他のサービス利用も提案させていただき解決策を探そう努めている | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 理念のひとつに、してあげる介護から生きることへの支援を！とあり、介護される一方の立場におかず、共に支え合うよう意識して取り組んでいる | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族に状態を手紙や電話で報告し、絆が切れないよう配慮している。通院はご家族に協力して頂き、本人とともに支える意識を持って頂いている | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 図書館や墓参り等なじみの場所やつながりが途切れないよう支援している | 家族が孫を連れて訪れ、家族と共に墓参りや自宅周辺をドライブしている。入居の長い人は、定期的な訪問の歯科衛生士や看護師、ボランティアの人たちとも、馴染みの関係になっている。これまで図書館を利用していた人には、その利用の継続を支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 食事や居間での席は良好な関係が保てるよう配慮している。また居室にこもらないよう声かけを行い職員が意識的に心地の良い利用者同士の関係を作りあげられるよう支援をしている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約終了後もいつでも相談にのれるような関係作りは行っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人から希望や思いを聞く機会を意識的に持つようにしている。言葉での表現が難しい方からは、表情や言葉の端々から意向の把握に努めている | 職員は観察力や意識を高め、利用者の日々の生活場面で、思いや意向を把握している。「花を育てたい、植木鉢を窓辺に飾りたい」などの希望があり、その人の思いを受け止め、その人らしい暮らし方の支援に努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 利用開始時をはじめ利用中も各人の生活歴や状況、習慣等について本人や家族にお聞きして把握に努めている | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎月のケアカンファレンスにて情報を共有し現状把握に努めるとともに日々の記録を読むことや観察等を通し把握に努めている | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月のケアカンファでモニタリングを行い、必要に応じて介護計画の見直しをしている。担当職員を筆頭にした職員の意見、看護師、家族の思いから現状に即して作成をしている | 毎月のケア会議で、個々の観察結果を、評価・査定をし、家族や必要な関係者の意見を踏まえて、介護計画を作成している。利用者が自分の役割を持って、生きる喜びが実感できるような計画にしている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個々の介護日誌をはじめ各記録により職員全員が情報を共有して、個別のケア、介護計画に反映させている | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人から生まれるニーズに対応できるよう随時観察、見守りをし柔軟な考え方で多機能化を心がけ取り組んでいる | | |

岐阜県 グループホーム小春日和

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 民生委員やボランティア、ご近所の方々については運営推進会議での話し合いをもとに協力して頂いている | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ホームの連携医療機関による定期的な往診や本人や家族が希望される医療機関の受診等柔軟な対応ができています。連携歯科医院による月1～2回の口腔ケアも行われている | 利用者や家族の意向を聞き、これまでのかかりつけ医の受診を継続している。協力医や訪問看護師、歯科医の定期訪問もあり、それぞれに連携を密に取り、利用者が適切な医療を受けている。緊急時は、職員が柔軟に受診対応をしている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 介護職は連携先の訪問看護師に利用者に関する情報や気づきを伝え、週1回の定期的で適切な健康管理が受けられるよう支援している。訪問看護師は24時間対応で相談、指示、対応体制をとっている | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院時には病院に対して必要な情報を提供している。退院にあたっては病院の医療連携相談室と話し合いをおこない、退院にむけスムーズに移行できるよう対応している | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化対応・終末期ケアに対する対応方針が作成されている。本人と家族には契約時に説明し、家族の協力の必要性についても理解を得ている | 重度化や終末期の方針があり、契約時に説明をしている。食事摂取や、日常生活が困難になり、医療行為が伴う時を支援の限界としているが、一定条件の下で、終末期支援ができる体制も整えている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 消防署が行う救急救命の研修に参加したり、ケアカンファの時や随時初期対応について勉強して、実践力・知識の獲得に努めている | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 定期的に消防訓練を行っている。災害時の地域の協力者名簿を作成している | 災害訓練は、消防署の立ち会いで実施をしている。避難誘導や初期消火、通報等を行っている。地域との協力体制があり、備蓄も確保している。夜間を想定した自主訓練を、計画的に行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | プライバシーに配慮がある話は居室で一人の時に話す脱衣場にカーテンを設置してプライベート空間を確保している。耳の遠いかたは耳元で話しかけるよう配慮している | 利用者に話しかけるときは、安心感を与えるようにしている。難聴の人には、耳元で話しかけ、入浴や排泄時には、羞恥心に配慮をしている。日常の場では、誇りを損ねないように、優しく言葉をかけ、笑顔で接している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人が希望や思いを表出できるような場面を意識的につくったり、食事や製作、衣類を選ぶ時等少しでも自己決定が出来るよう配慮している | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人一人の心身の状態やペースに合わせて出来るだけ希望に沿った過ごし方をしている | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 衣類や化粧等の身だしなみは出来る方は本人の意思で決めている。理容・美容は業者に来所して頂き、本人希望でカットや顔そり、毛染めをしている | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者の能力や好みに合わせ、配膳や茶碗洗い、下ごしらえ、お握り作り、おはぎづくり等参加して頂いている。職員は利用者と同じメニューを一緒にとり、楽しい雰囲気作りを心がけている | 利用者は、食材の下ごしらえや配膳、片付けなどに関わっている。献立は、利用者の好みの味付けや、大きさ、柔らかさに配慮し、懐かしの歌謡曲が静かに流れる中、楽しく会話を楽しみながら職員と一緒に食している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事は管理栄養士が作成したメニューに基づき作っておりバランスはよい。食事量や水分量は記録により把握をし一人一人の状態に合わせて提供回数や時間を工夫して。またゼリーをおやつに出すことで水分摂取量を増やしている。夜間は居室でペットボトルで水分が自由にとれるようにしている | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後に口腔ケアの声掛けしたり、介助をしている。毎月1~2回の連携歯科医院に来所してもらい本格的な口腔ケア・医療との連携がとれている。ご自分でされた後に個別で仕上げ磨き等を職員がしている。 | | |

岐阜県 グループホーム小春日和

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表にて状況を把握し、失敗が少なくなるようトイレ誘導を行っている。必要に応じ、排便促進のために腹部マッサージを施行しトイレ内排泄につなげている。必要に応じポータブルトイレを居室に設置している | 個々の排泄パターンに応じて、トイレ誘導を行い、自立につなげている。おむつやパッドは、個々の排泄状態合わせて、選択している。必要に応じて、ポータブルトイレも活用している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄チェック表で排便の状況を把握し、麦ごはんの提供をし、運動や体操を積極的に行ってもらっています。バナナジュースを利用者の好みや状態に合わせて提供し予防対策をとっている | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 曜日や時間帯はおおまかに決まっているが利用者の体調や希望にそって柔軟に対応している。 | 入浴は、午前と午後に分け、順番や時間帯は、本人の希望を優先している。入浴を拒む人には、脱衣場に好きなタレントの写真を飾り、気分よく、入浴できるような工夫をしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 出来るだけ日中は活動して頂き、生活リズムを整えよう支援している。本人の体調や希望を考慮し居室や居間、庭で休息がとれるようにしている | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬ファイルを作成し利用者が服用している薬の作用や副作用を把握できるようにしている。服薬による症状変化は毎日のバイタルチェックや訴え、看護師による観察により確認している | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 日常生活の中でゴミ捨て、カーテン閉め、配膳、茶碗洗い等、役割作り支援が出来るよう能力や好みの把握をするように努めている。デイサービスにでかけ、ギター演奏会やヨガ等で交流し気分転換ができるよう機会をもうけている | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 庭には自由に出ることができる。また墓参りや図書館、第二グループホームや近所への散歩、花見や外食の機会を設け本人の希望に沿うようにしている。外食先の業者にはスムーズな受け入れをして頂けるよう協力を依頼している | 利用者は、前庭のベンチで気軽に外気に触れることができる。周辺の散歩へも自由に出かけている。季節の花見や外食、図書館、墓参りなどへの外出も支援している。個別の外出希望にも応じている。 | |

岐阜県 グループホーム小春日和

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 本人の能力と希望に応じ、公衆電話を自由に金銭を使用して使えるように支援している | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 公衆電話を設置しており、自ら電話できるようになっている。手紙はご本人が書けるよう必要なものは要望に応じて用意している。また携帯電話で家族と連絡をとられる利用者もいる | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節を感じるができるちぎり絵や写真が食堂や廊下にかざってある。手作りカレンダーや習字の作品が食堂に飾られている。また視力の低下した利用者が安全にトイレを使用できるよう電気はつけたままの状態にしている | 季節感のある貼り絵や、歌詞の入った塗り絵の作品を、共有場所の要所に飾っている。談話室には、大型テレビや長椅子、足もみ機があり、くつろげる場になっている。窓を開けて換気に心掛け、空気清浄器も備え、居心地よい空間である。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 居間では一人一人の居場所ができるよう椅子の配置や数に配慮している。ベランダや庭には自由に出られることで居場所作りはできている。気の合う方たちで作業できる小さいテーブルを提供している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人が外の山々の景色をみるのが好きならば出来る限り景色の良い居室を選んでいただいたり、落ち着くような家具を使用して頂いたり、自宅から写真を持ってきて頂き、居室に飾り安心して過ごせる空間を作る工夫をしている | 居室には、馴染みのものを持ち込んで。タンスや化粧箱、仏壇、色紙、家族の写真等、利用者の好みに配置をしている。押し入れは、備え付けで、整理整頓が行き届き、ゆとりのある居室づくりをしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 手すりを安全な移動のためにトイレ、廊下、脱衣場とあらゆるところに設置している。スロープをつけ階段の段差解消をおこなっている。トイレスイッチの把握が困難なため操作しなくても良いようにしてある | | |